

【研究報告書】

体操クラブにおける非認知能力向上の評価研究—

共同研究：早稲田大学 人間科学学術院 井上典之研究室

●研究の動機と方法

子どもの能力を評価する指標として以前は「認知能力(IQテストや学力テストの点数)」が信じられてきました。認知能力は主に学校で生まれ、学力テストの点数等により数値化され、高い得点を取り良い学校へ進学し、将来は大企業へ就職することが幸福につながると考えられてきました。

しかし、最近「非認知能力」の重要性が注目をあびています。非認知能力は、チャレンジ精神・思いやり・コミュニケーション・メンタルの強さなどをさします。これらの能力は、子どもの将来の学業のみならず、経済的な成功や幸福度を左右する非常に重要なパラメーターで、家庭環境や課外活動、習い事、学校生活で経験する様々な出来事により育まれます。

弊社で行っているスポーツ教室のプログラムにも以前より非認知能力を育む内容を取り入れてきました。

そこで、弊社のスポーツ教室において、どのような非認知能力がどの程度育まれるのかを調査するため、この度、早稲田大学 人間科学学術院 井上典之教授と、「自己決定理論」と「ビッグファイブ理論」の計8要素を用いて非認知能力の共同研究を行いました。

●非認知能力とは

自己決定理論 (Deci & Ryan, 1990)

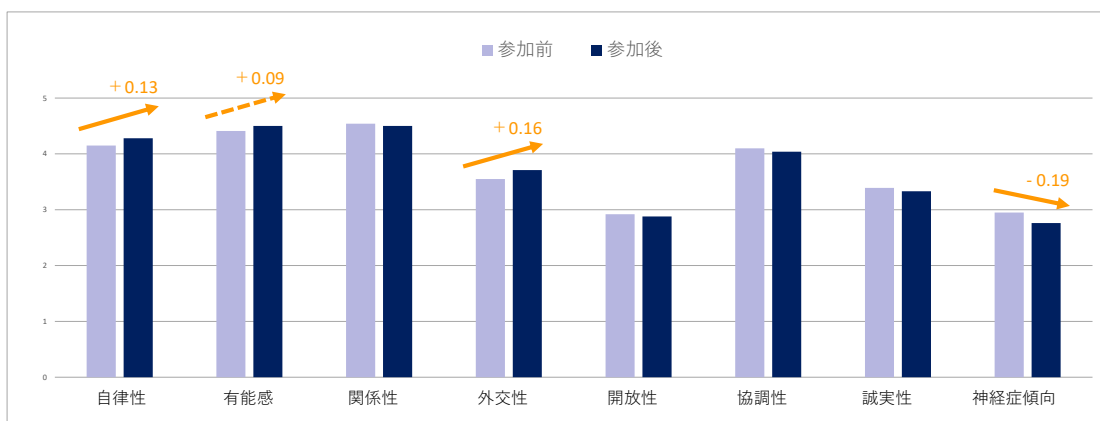
- ・自律性 … 自分の価値観に沿って自分の意志で行動しているという感覚
- ・有能感 … 頑張れば自分はできるようになるという感覚
- ・関係性 … 周囲の人々や環境とつながっているという感覚

ビッグファイブ理論 (Goldberg, 1990,1992)

- ・外交性 … 興味関心が外界に向けられること。積極性、社交性、明るさ
- ・開放性 … 知的・美的・文化的に経験に開放的なこと。好奇心、審美眼、アイデア
- ・協調性 … 周囲とのバランスを取り行動すること。思いやり、優しさ、献身的
- ・誠実性 … 責任感があり勤勉で真面目なこと。自己規律、良心、慎重
- ・神経症的傾向 … 落ち込みやすいなど、感情面・情緒面で不安定な傾向。ストレス、不安、衝動的

●研究の結果

自己決定理論の3要素（自律性・有能感・関係性）とビッグファイブ理論の5要素（外交性・開放性・協調性・誠実性・神経症的傾向）の計8要素において、先行研究で使われている非認知能力の評価はほとんどが小学校4-6年生以上を対象とした自己評価によるアンケート調査であることから、本研究でも小学校4-6年生を対象としたアンケート調査をおこないました。先行研究のように児童が質問への回答を5件法（1=はい、2=どちらかというは、3=ふつう、4=どちらかというといえ、5=いいえ）で選択する形でアンケートの質問項目を作成し、アンケートの各質問項目はビッグファイブ理論・自己決定理論を使った先行研究に基づきながら、スポーツ教室での活動内容にフィットするように文面の調整を行いました。そして、スポーツ教室へ参加前と後で有意差のある変化が見られるかの統計分析を、対応サンプルに対するt検定を使って行いました。



その結果は、スポーツ教室の活動を通して児童は、自律性・外交性・(有能感)を向上させ、どうすればうまくなれるかを自分で考えることができるようになったり、頑張ったら上手くなるという感覚を獲得していました。それと同時に、神経症的傾向の数値は減少したことから、くよくよせずに元気よく行動を起こすことの価値を学んでいることが明らかになりました。

また、児童へ行ったインタビューでは、スポーツ教室の仲間やインストラクターとの関わりの中で自分のことを振り返ったり、上達のために練習を繰り返したり、チャレンジを乗り越えたりすることで自己決定理論・ビッグファイブ理論で定義される非認知的な学びの機会を獲得していることが明らかになりました。

さらに、自己決定理論・ビッグファイブ理論で定義される非認知能力の発達には、スポーツ教室に参加する児童の中で独立・排他的な形で行われるのではなく、相互に依存しながらまずスポーツに関わる分野を中心に育成され、そこから学校での学びや友達との関係へ広がっていく傾向があることも推察されました。

●まとめ

弊社のスポーツ教室は、児童をとりまく環境の中心として機能しており、通っている児童はインストラクターや他の児童との「関わり」を大切にしながら活動しています。そして、そこで学んだことや感覚を基に家庭や学校でのやり取りを行い、自律性や外交性を育んだり神経症傾向を解消させ、豊かな非認知的な学びの機会が実現していることが本研究で示唆されました。

弊社スポーツ教室は、非認知的な学びの実現を可能にする環境の軸となることで、児童の非認知能力の発達に大きな貢献をしているということが明らかになりました。